

BIG BEN

p1-2 会員が参加できる催し物

p3-4 **特別記事**：第1次大戦 100周年、
ウェールズで日本人犠牲者慰霊碑建立

p5 **領事便り**：安全なロンドン生活のアドバイス

p6-7 **短信**：日本人社会の動き

p8 **日本庭園清掃、ジャパン祭り報告**

p9 **クリサンシマム・カップ結果**

p10 **新規加入の法人会員**

ロンドンをもっと知ろう、楽しもう！

今年も豊富な会員参加型の催し物

日本クラブの委員会が企画する会員参加型のイベントが今年も盛んだ。毎年恒例となったシティ散策ツアーやワイナリー見学バスツアー、日本酒セミナーに加え、今年は大英博物館の見学ツアーも新たに加わった。いずれも会員の皆様にロンドンをもっとよく知ってもらうため、また英国生活を楽しくしてもらうために企画されている。

◆今年も計6回のシティ散策ツアー

今やおなじみになった坂次健司さんのガイドによるシティ散策ツアーが今年も春・秋のシーズン2回に分けて計6回開催された(中央コース2回、東西南北コース各1回)。後半の9月23日に行われた西コースに参加してみた。

集合は地下鉄ブラックフライヤーズ駅改札口で、集合時間前から参加者が続々と集まり、坂次さんが用意してくれているワイヤレスレシーバー・イヤホンを受け取る。定員は30名でかなり大きなグループになるので、一か所に集まって坂次さんの肉声ガイドを聞くのは難しい。それでもこのイヤホンのおかげで、ガイドから少し離れていても情報は確実に伝わる。

今日は生憎の雨模様だが、ツアーは雨天決行、雨傘をさしたり帽子をかぶって熱心に説明を聞く。最初の訪問地ブラックフライヤーズ・ブリッジでは、「ここが2000年前の海水が登ってくる限界点で、橋の下流側には海水魚の彫刻が、上流側には淡水魚の彫刻が施してある」という説明があり、普段は見たこともない橋の欄干を一生懸命眺めてみる。



今日は全部で15か所も回るので、長居は出来ない。さて次へということで、橋から北へ向かって大移動、次は1617年創立というWorshipful Society of Apothecaries(薬剤師・薬屋協会)へ。アガサ・クリスティもここで薬剤師の資格を取得している。今日は特別オープンデーのため普段は入れない建物にも入場可能、中でもアーカイブは圧巻で歴史的な標本や書籍、薬を入れる瓶が並べられている。

建物内はかなり混雑しており、あまりゆっくりせず次の目的地へ。このころから雨は小降りになり、傘が不要となる。ツアーはどんどん進みフリート・ストリートに近いホイトフライアーズ地区へ。

ドミニコ会修道士が着ていた黒い修道衣(Blackfriars)に対して、ここにはカルメル会の修道院があった。この修道士が白い修道衣(Whitefriars)を身に付けていたため、この地区はホワイトフライアーズと呼ばれている。

ツアーはこの調子でものすごい量のエピソードと蘊蓄(うんちく)を交えながら参加者の興味を引き付けてどんどん先へ進んでいく。法曹院のインナー・テンプルやミドル・テンプルに着くころにはすっかり天気も回復し日が射してきた。

(2面へ続く)

続いて昔の新聞街のフリート・ストリートを通り、王立最高裁判所を見てサマセット・ハウス、サボイ・ホテル等、テムズ川沿いを通りエンバンクメント駅近くで解散となった。3時間以上に渡るロンドン歴史の散策ツアーだった。

◆ワイナリー見学バスツアー



セラーでスパークリング・ワインの試飲

ツアーは醸造課程の見学後、ここで造られるスパークリング・ワイン等を試飲、昼食後はミニトレインでブドウ畑を一周するツアーもあり、参加者全員が大変楽しんだ一日となった。

9月2日(日)に今回4年目、通算6回目になるワイナリー、デンビーズ・ワイン・エステート見学バスツアーが開催された。今年の

<これから行われるイベント>

◆大英博物館見学ツアー

シティ散策ツアーでお馴染みの坂次健司さんのガイドで、大英博物館の見学ツアーが開催される。

第1回：11月10日(土)午後2時～4時30分

第2回：11月17日(土)午後2時～4時30分

◆酒テースティング

昨年大好評だった日本酒セミナーを今年も開催する。講師は昨年に続き酒サムライ社の吉武理恵さんと今年は「浦霞」蔵元の佐浦社長も加わる。テースティング付きで日本酒に関する豊富な知識を伝授してもらえる。

11月16日(金)午後7時～午後8時30分

◆インテリアとアンティーク

4月に開催して好評だったインテリア・セミナーを再び開催する。前回の斎藤、水野両講師に加え、今回は桑原運輸社長の桑原茂氏を特別講師に迎えアンティークについての話も聞ける。

12月11日(火)午前10時30分～午後1時

写真探訪 Around London

【Greenwich Foot Tunnel】

ロンドンにはテムズ川の川底を歩いて渡る歩行者専用のトンネルが2本ある。1本はグリニッチ・フット・トンネル、そしてもう1本はもう少し下流に行ったウーリッチ・フット・トンネルである。ヴィクトリア時代の終わり1902年に出来たグリニッチ・フット・トンネルは天文台のあるグリニッチとテムズ北側のアイランド・ガーデンを結んでいる。ドーム型の建物がトンネルの入口だ。エレベーターで川底約15メートルの深さまで降りることになるが、エレベーターが動いていない時は川底まで100段の螺旋階段を降りることになる。このトンネルは対岸まで約370メートルの長さがあり、円筒形のトンネル内部は白いタイルが貼られており川底にあるとは思えないが、ところどころに水漏れのような跡があり、何となく不安感も付きまとう。ゆっくり歩いても10分ぐらいで川を渡れる。このフット・トンネルはもともと川の南側に住む人が、北側のアイル・オブ・ドッグズ(Isle of Dogs)にある船着き場で働けるようにするため掘られたものであり、このトンネルはドックに勤める人の重要な通勤路だった。

(文・写真：加藤節雄)



特別記事：今年第1次大戦100周年

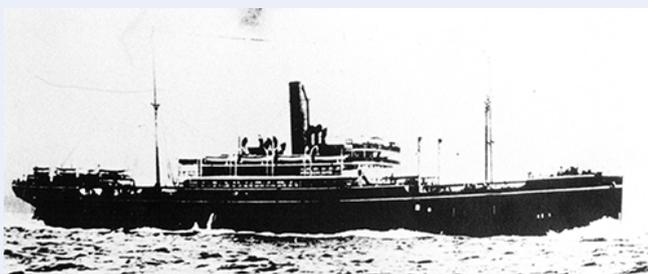
日本人犠牲者、ウェールズで慰霊 当時日本人倶楽部でも追悼会

● Uボートの魚雷攻撃

第1次大戦末期の1918年10月1日、日本郵船会社(NYK)の貨客船「平野丸」(8520トン)が船客97名、乗組員143名(合計240名)を乗せてリバプール港を出港した。ケープタウン経由で横浜に向かう同社の定期欧州航路だった。平野丸は4日未明にはアイルランド沖100キロの地点を平穏に通過していた。午前5時15分、突然一発の魚雷が平野丸の右舷船倉に命中した。続いてもう一発の魚雷が右舷機関室中央部に炸裂、爆発を起こし平野丸はわずか7分で船首方向から急角度で沈没してしまった。ドイツ軍の潜水艦Uボートの攻撃だった。

当時アイルランド沖はドイツ軍のUボートが頻繁に出没しており危険水域とされていた。平野丸も輸送船16隻から成る護送船団に加わり、米海軍駆逐艦「スタレット」の護衛の下で航行していた。なぜ民間の日本船だけがターゲットになったのかは定かでないが、辺りはまだ夜明け前で暗く、しかも天候が悪く強風波浪のため、救助作業も危険を極めた。また、駆逐艦自身も魚雷攻撃を受けたこともあり、平野丸自身は被弾から沈没までの時間が非常に短く、救命ボートを降ろす暇もなかった。

それでも懸命の救助作業は続き、船客11名、乗員19名が救助され、アイルランドのコーク港に輸送されたが、この攻撃で210名が命を落としてしまった。NYKは第1次大戦で敵の攻撃で5隻の船を失っているが、殉難者の数では235名中210名と平野丸が圧倒的に多い。皮



「平野丸」(日本郵船歴史博物館所蔵)

肉なことに約1か月後の11月11日にはドイツと連合国の休戦協定が結ばれているので、平野丸も出航がもう少し後であればこの不運に会わずに済んだことになる。

● 地元歴史家の努力

殉難者の遺体が次々とアイルランドの対岸のウェールズのペンブロークシャー海岸に漂着した。遺体の漂着した村ではそれぞれに住民により遺体は教会墓地に手厚く埋葬された。遺体の名前が分からないため、教会の埋葬



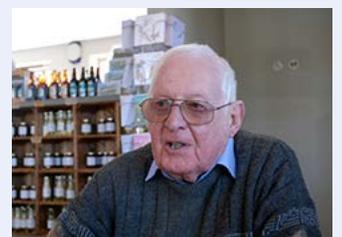
アングルの教会の埋葬地に立っていた木の墓標

記録には Unknown sailor とか Oriental looking と記載された。

アングル村には10体の遺体流れ着いた。遺体の中で一人だけ制服を着て名札を付けた人がいた。大越四郎さん、平野丸の給仕長だった。当時建てられた木の墓標には「日本郵船會社平野丸遭難者の墓」「大越四郎他九名」「大正七年拾月五日建之」と書かれていた。

しかし、この木の墓標も時代とともに朽ち果て、わずかに教会の埋葬者名簿に記載が残るのみとなってしまった。

地元の歴史家のデイビッド・ジェームズ(David James)さんは、ここに



デイビッド・ジェームズさん

日本人の殉難者が眠っていることを調べ、日本からほど遠いウェールズの海で遭難し、この地に埋葬された人をちゃんと弔うべきと思い、石の墓碑を作るために運動を始めた。地元の有志が資金集めをはじめ、デイビッドさんは平野丸の船主であったNYKに手紙を書いて協力を要請、NYKが協力を約束して、運動は軌道に乗り、丈夫な花崗岩を使った立派なおペリスクの慰霊碑が完成、平野丸受難からちょうど100年めにあたる10月4日(木)、アングルのセント・メアリー教会の埋葬地で日本大使館の飯田慎一公使、NYKの代表をはじめ、多数の地元住民が見守る中、英王室のグロスター公により序幕式が執り行われた。

●遺族の思い

今年の5月には、このことが共同通信の記事として日本に紹介された。その記事を見た中村良子さん(72)は心臓がどきどきする思いをした。彼女の所有する家族アルバムには彼女の祖父に当たる海軍主計中監・山本新太郎氏が平野丸で遭難したと、アングルに建てられた木の墓標の写真が貼ってある。またその年の7月にロンド



中村良子さんと娘の都築沙耶さん
(加藤節雄撮影)

ンの日本人倶楽部で行われた祖父の追悼会の写真もある。10月4日の式典には是非とも参加したいと思い、娘さんの都築沙耶さんを伴って日本からロンドンへ、そこからすぐ列車でウェールズのカーディフへ直行、翌朝NYKの手配したミニバスで現地に到着した。遺族の方が訪れてくれたというのでデイビッドさんをはじめ地元の人の中村さん親子を大歓迎、日本とウェールズのきずなが強まった。

中村さんは「平野丸犠牲者を手厚く葬ってくれたデイビッドさんをはじめ村の人たちにお会いしてお礼を言いたい一心で来ました。立派な慰霊碑が出来てこれで平野丸の歴史が風化せず次の世代に受け継がれていくことがとても嬉しいです。」と喜びを語っている。

●日本人倶楽部で追悼会



日本人倶楽部で行われた追悼会(中村良子さん提供)

山本新太郎氏は海軍主計中監として1918年4月に軍事視察のため欧米各国への出張を命じられ、10月には任務を終えてリバプールから横浜に帰国するため平野丸に乗船した。氏は帰らぬ人となったがその数日後には奥様が女兒を出産、それが中村さんのお母様だった。

当時は日英同盟華やかなりしころで、ロンドンには海軍関係の人がたくさん駐在しており、山本氏の遭難はショックを持って受けとめられた。7月にはロンドン日本人倶楽部で追悼会が開かれ、当時在英していた飯田少将が弔辞を読んだ。

ロンドン日本人倶楽部は現在の日本クラブの前身であり、創立は1881年(明治14年)、当時ロンドンにオフィスを構えていた日本郵船、三井物産、横浜正金銀行の3社を会長社として始まった。現在の日本クラブには戦前の記録がほとんど残っていないが、平野丸が郵船の所有だったことや郵船が会長社を務めていたことなどで日本人倶楽部で追悼会が開かれたものと想像される。ちなみに当時の日本人倶楽部はウエスト・エンドのMortimer Streetにあった。

第1次大戦から100年、歴史はつながっているという思いを強くする。
(加藤節雄)





安全・快適なロンドン生活のためのアドバイス

ロンドンには世界の中でも、最も魅力に溢れたエキサイティングな大都市のひとつであり、最も安全な都市のひとつでもあります。しかし、他の大都市と同じように犯罪の被害に遭う可能性もありますので、ご自分の身の周りの安全に気を配り、持ち物に注意を払うことが必要です。今回は皆様のロンドン生活が有益なものとなるよう、かつ安全なロンドン生活のための幾つかのアドバイスをご紹介します。滞在が長期にわたる皆様には今更ということもあると思いますが、転ばぬ先の杖として参考にしてください。

外出先で

- レストラン、バー、劇場等ではバッグを床に置いたり、イスの背もたれに掛けたりせず、必ず目の届く所に置きましょう。専用のバッグ掛け用フックがある場合は、利用するとよいでしょう。
- 携帯電話の盗難が非常に多く発生しています（盗難被害件数のトップ）。携帯電話をテーブルやバーカウンターの上に放置しないようにし、街中で使用する時は周囲の様子に目を配りましょう。
- 現金自動引出機を使用するときは、背後などから暗証番号を盗み見られないよう、常に周りに注意します。また、様々な方法で注意をそらした際に引き出した現金やカードを盗む手口が横行しているため、気をつけましょう。
- 夜間、徒歩での外出の際には、人通りの多い明るい通りを歩くようにしましょう。

タクシー

ロンドンには認可されたブラックキャブと、認可されていないミニキャブの2種類のタクシーがあります。ブラックキャブは、トランク部分に「Licensed by the Public Carriage Office」と記された白い認可プレートが付けられており、同様のものが車内にも掲示されています。

道で流しのタクシーを拾おうとしているお客を乗せてよいのはブラックキャブのみです。

物乞い

路上で物乞いすることは犯罪です。繁華街で見かける物乞いの中には薬物中毒者で、薬物を買うためにお金をせがむ人もいます。これらの人々による不法薬物の購入は、地域に多くの問題を引き起こしているため気を付けましょう。

スリ

- 財布は内ポケットに入れ、ズボンの後ポケットに他人から見える状態で入れないようにしましょう。
- 貴重品をリュックサックに入れて持ち歩かないようにしましょう。混雑の中では簡単にリュックサックのジッパーを開けることができます。
- ハンドバッグ等は留め具、ファスナーをきちんと閉めた上で、ファスナー部分を内側にして体の正面に位置させ、しっかりと持つ（ショルダーバッグは、たすき掛けにする。）ようにしましょう。
- レジで支払いを待っているときは、所持金が見えないようにし、お釣りも見えないようにしましょう。
- 突発的な騒動などが起こった際は、特に注意することが大切です。財布などを狙うスリが、人の注意をそらすために企てた可能性もあります。

それでも被害に遭ってしまったら

緊急時には **999 番**、緊急でない場合は、101 番もしくは **最寄りの警察署** まで。

短 信

COMMUNITY PLAZA



グラハム・フライ氏叙勲

2004年から2008年まで駐日英国大使を務めたグラハム・フライ氏 (Sir Graham Fry) が秋の叙勲で旭日大綬章を受章した。氏は大使退任後もロンドン大学 SOAS (School of Oriental & African Study) において、数々の著名な講師を招請したり、立命館大学とのパートナーシップに取り組み、ビジネス界においても英国に進出する日本企業の顧問や取締役を務める等、日英関係における重要な役割を果たした。叙勲伝達式は9月5日(水)日本大使館で行われた。(写真①日本大使館提供)



カズオ・イシグロ氏叙勲

長崎生まれで5歳の時に渡英し英国人として作家活動を続けるカズオ・イシグロ氏 (Sir Kazuo Ishiguro) が旭日重光章を受章した。イシグロ氏は1980年代に執筆を始め、82年のデビュー作『遠い山なみの光』で英王立文学協会賞を受賞、『日の名残り』ではブッカー賞を受賞、2017年には

ノーベル文学賞を受賞した。叙勲伝達式は9月12日(水)日本大使館で行われた。(写真②日本大使館提供)



JET 帰国者 歓迎パーティー

英国人の若者に日本で英語教師助手をしたり、地方の国際交流事業の手伝いをしてもらうJETプログラムは今年で32年目になるが、9月21日(金)にはロンドンのアジア・ハウスで今年帰国した人の歓迎パーティーが開かれ、自治体国際化協会ロンドン事務所の黒野嘉之所长等が帰国者を歓迎した。会場には日本人コミュニティの代表も招かれ、日本酒を飲みながら歓談した。英国からすでに1万人以上が日本へ派遣されている。(写真③)



今田裕子さんのワークショップ

ロンドンを拠点に活躍するアーティストの今田裕子さんが9月5日から10月30日までロンドンのSway Galleryで個展を開催した。今田さん

は最近大英博物館で開催された「北斎展」で、子どもたちと和紙で北斎の波を作るインスタレーションで注目を集めた。今回の個展でも版画のワークショップや若い作曲家が今田さんの絵画のインスピレーションをもとに作曲し、その演奏会を行う等、多彩な催し物を行った。(写真④)



日本研究のJRCが40周年

ロンドン大学 SOAS 内にある日本研究センター (Japan Research Centre) が今年で創立40周年を迎え、記念パーティー「不惑」が同大学のブルネイ講堂で開催された。同研究所で働く学者や研究者が自分の専門分野を披露した。(写真⑤ JRC のヘレン・マクノートン所長の挨拶)



日本ギャラリー再オープン

大英博物館のジャパニーズ・ギャラリーは9か月間にわたり改装工事のため閉館されていたが、9月27日(木)新装再オープンした。新ギャラ

短 信

COMMUNITY PLAZA



リーはデザインを一新し、古代から現代に至るまでの日本の遺品や芸術品を430点展示している。最近収蔵品に加わった江戸時代の武士の鎧兜（写真⑥）や著名なデジタル作家・宮島達男の作品「Time Waterfall - Panel #8」も展示されている。

Mitsubishi Corporation Japanese Galleries
Rooms 92-94, The British Museum
入場無料

塩見奈々個展

日本の伝統的木版画の手法で制作を続けている在英の版画家・塩見奈々さんが個展を開催する。塩見さんは18年かけて「見立て百景」シリーズを完成したばかりだが、今は次のシリーズの「茶碗」に挑んでいる。今回の展覧会は'London Asian Art Week'の一環として版画店ギャラリーが企画したもの。

● Nana Shiomi
Gallery 8, 8 Duke Street, St James's
London SW1Y 6BN
10月29日(月)～11月9日(金)
10:00～18:00(土、日は休館)
www.hangaten.com (写真⑦)

日英音楽協会 X マス・コンサート

今年で第27回目になる日英音楽協会(ジョナサン・グレゴリー会長)のクリスマス・コンサートが12月8日に開催される。今年は日英合唱団、日英コンサート - 日英若手のソリスト(バイオリン、声楽など)でベンジャミン・プリテンの作品やクリスマス・キャロルの演奏をする。(写真⑧指揮者のJonathan Gregory氏)

日時: 12月8日(土) 午後5時開演
会場: St John's Church
地下鉄: St John's Wood
入場料: £15、£10、con£7(学齢前のお子さまの入場不可)
www.ukjapanmusicsociety.org

ジャパン・ハウスで紙の展覧会

ジャパン・ハウスで紙の展覧会'SUBTLE'が開催される。日本国内の紙関連業界における唯一の紙の展覧会「竹尾ペーパー・ショー」(主催: 株竹尾)で、紙の可能性を追求する15人のクリエイターが紙のアート作品を展示する。(写真⑨三澤遥作品「Paper Flower」)

● Takeo Paper Show - Subtle
11月13日(火)～12月24日(月)
Japan House London
101-111 Kensington High Street
London W8 5SA
入場無料
www.japanhouselondon.uk

オセアニア地区のアート展

ミラネシア、ミクロネシア、ポリネシアという広大な太平洋に広がる島嶼国の歴史遺品やアート作品を集めた展覧会が行われている。ハワイからニュージーランド、ニューギニアからイースター・アイランドまで約200点の展示品が集められ、この地域の独特の文化を紹介している。これはロイヤル・アカデミーの創設250周年の特別展であり、また、キャプテン・クックがこの地区を初めて探検してから今年で250年目にあたる。(写真⑩)

● Oceania
Royal Academy of Arts
Burlington House, Piccadilly
London W1J 0BD
12月10日(月)まで
入場料: £20 (Gift Aid 含む)
www.royalacademy.org.uk

ボランティア60名が奮闘

日本庭園清掃作業

恒例となったハマースミス公園日本庭園清掃作業が好天に恵まれた10月7日(日)に行われた。今年の作業は通常の池の掃除、笹や竹藪の剪定に加え、ベンチのペンキ塗りや柳のブッシュの除去作業もあり、ボランティア参加者60名が汗をかいた。清掃は午前11時から午後2時までで、お昼は日本クラブ提供の日本食の弁当に舌鼓を打った。また、ハマースミス&フラム区のダリル・ブラウン区長と日本大使館の飯田慎一公使よりねぎらいの挨拶があった。



今年も盛会

ジャパン祭り10周年

今年10回目を迎えるジャパン祭りが9月30日(日)トラファルガー広場で開催された。和太鼓演奏やマーシャル・アーツの実演、露店での日本食や今年初登場の観客を巻き込んでの阿波踊りが人気を集めた。



(写真・川上真)



(写真・川上真)

(写真・利田勝則)



イギリスの旅情ミステリー

秋になり、日の暮れが早まると、実質的に屋内で過ごす時間が長くなります。晴耕雨読とはよく言ったもので、趣味のうち一つは戸外ですもの、一つは屋内ですものを持てば、天気や日照時間に左右されずに、1年中何かしら楽しむことができます。特に、1年の半分は天気の悪いイギリスにおいては、これは精神的な健康を保つためにも重要なことです。

屋内でできる趣味の一つが読書ですが、空想により旅をしている感覚になれる分野として、紀行文学があるでしょう。私は特に旅情ミステリーと呼ばれるもののファンです。日本にも、京都を舞台とした「科捜研の女」もあれば、ルポライターの浅見光彦が全国をまたにかけ、行く先々で事件に巻き込まれては解決していくタイプのももあります。

それと同様に、イギリスにも「インスペクター・モース」のように、実在のオックスフォードを舞台としているものもあれば、ケンブルフォードという架空の村であれこれと起こる事件を聖職者が解決する「ファーザー・ブラウン」というシリーズもあります。こちらはグロスターの様々な村がロケ地として使われており、イギリスの村の生活がよくわかります。

お馴染みのシャーロック・ホームズはもちろんロンドンのベイカー街が謎解きの拠点で、ロンドンの街を馬車で駆けてはあちこちに神出鬼没します。しかしその一方、依頼を受けて、イギリスのあちこちに出かけていき、海外にも行っています。

ミステリーの女王、アガサ・クリスティも同様の手法を取り、主人公のミス・マーブルもボアロもよく自分の家から依頼人のいるお屋敷や、ホリデーに出かけていきます。

このようなシリーズを通じて、ある町や村、地方の生活をまるで住人になったように味わったり、あるいは行ったことのない広大なスイスアルプスや異国情緒たっぷりのナイル川を映像で見れば、実際に自分も行ってみたく気持ちになろうというものです。

いつかBBCの見学をした時に、ラジオ放送での音響効果を体験するコーナーがありました。馬の蹄の音、波の流れる音などの後に、ツアーリーダーが大きな袋をどさっと投げ、「何の音？」と聞いたのです。皆、「袋は袋だし。。」と思っていたのですが、私がつい「死体？」と言ったところ、「そう！だが、なぜ分かった？」と驚かれ、「いえ、ミス・マーブルのファンなものですから」と答え、大笑いされました。ちょっと見過ぎですね。

2018年日本クラブ総会のお知らせ

日時：12月6日(木) 16:00

会場：日本クラブ大会議室

総会の詳細はメール配信にてお知らせします。
出欠は専用サイトにてご確認いただきますので、
よろしく申し上げます。(事務局)

クリサンシمام・カップ

日本クラブチーム連勝ならず

欧・米の選抜選手によるゴルフ対抗戦ライダーカップより長い歴史を持つ1923年から続く伝統のメイデンヘッド・ゴルフクラブと日本クラブの日英親善対抗戦クリサンシمام・カップが10月13日(土)にメイデンヘッドGCで行われた。

当日はウェールズ方面の大雨の影響が心配されたが、メイデンヘッドは少々風は強かったものの、陽が少し出て気温20度を超えて汗ばむほどだった。

試合は日英2人ずつ6組で行われたが、結果は日本側が5-1で敗れ、昨年に続く連勝はならなかった。



日英両チームのキャプテン

日本クラブ新規加入の法人会員

- ◆ Chintai UK
- ◆ ORIX Corporation UK
- ◆ Nippon LP Resources UK

会員登録

日本クラブは日本人のためのクラブです。日本人であれば誰でも会員になれます。会員カテゴリーには法人会員正会員と個人会員があり、個人会員には駐在員、一般、永住者、学生があります。学生以外の人の入会単位は家族となります。詳しくはホームページ参照
 < www.nipponclub.co.uk >

日本クラブ・ゴルフ同好会

- ◆ 月例会：開催中
- ◆ 会 場：Maidenhead Golf Club
- ◆ 問い合わせ：☎ 07956-551363 (外山健二)
 kenjitoyama787@gmail.com
 随時入会受付中 (申し込みはHP から)

日本クラブ・ブリッジ会

- ◆ 例 会：毎週木曜日 (11:30am 開始)
- ◆ 会 場：ヤングチェルシー・ブリッジクラブ
 (http://ycbc.co.uk/)
- ◆ 問い合わせ：yasy9395@aol.com (宮崎)
 見学者歓迎

日本クラブ・グリーンコーラス

- ◆ 練習日：毎週月曜日 (10:15 ~ 12:30)
- ◆ 会 場：Trinity Church, Golders Green
- ◆ 問い合わせ：michiyonagoshi@gmail.com
 (名越)

日本クラブ囲碁会

- ◆ 例 会：毎週土曜日 (14:00 ~ 20:00)
- ◆ 会 場：Inn of Court Pub
 地下鉄 Chancery Lane Exit 3 より
 直進 2分
- ◆ 問い合わせ：☎ 07956-594040 (田中)
 tanaka@gokichi.org.uk

クラブサロンのご利用を！

日本クラブのクラブサロンはロンドン中心部セント・ポール大聖堂のテムズ川対岸のサザックにあります。ラウンジや会議室、ソフトドリンク、JSTV等のサービス施設があります。テムズ川南岸のこの地区は再開発が進むエリアで、テートモダン・ギャラリーを始め、数々の店やレストランが並んでいます。地下鉄ジュビリー線のサザック駅から徒歩5分、ロンドン・ブリッジ駅からは10分の便利な場所にあります。会員であれば誰でもご利用になれます。



地図はホームページ (www.nipponclub.co.uk) の「日本クラブご案内図はこちら」を参照してください。

- * 建物入口のレセプションで、日本クラブへ行くと教えてください。(会員証の提示を求められることもあります)
- * 閉館時間以外はシャッターが閉まっています。入場出来ません。

● Nippon Club

Ground floor, Europoint Centre
 5-11 Lavington Street, Southwark, London SE1 0NZ
 TEL : 020-7921-9490, Email : jimukyoku@nipponclub.co.uk
 月曜～金曜 : 午前 10 時～午後 9 時 (事務局は午後 6 時まで)
 土曜 : 午前 10 時～午後 4 時 (事務局は休日)
 日曜・祭日は原則休館
 * 平日午後 6 時以降と土曜日は会議室の利用状況により閉館することがあります。

ロンドン日本人学校

ロンドンにある特性を生かしつつ、学習指導要領に準じた教育を実践しています

- 運動会・文化祭などの行事
- 整った学習環境
- きめ細かな進路指導・進路講演会
- 英会話や英語活動
- 英語検定や漢字検定の実施
- 現地校との交流
- 放課後の楽しい部活動(5年生以上)
- 通学バス利用可



ロンドン補習授業校

英国の現地校等に通学している子ども達が、国語(日本語)の勉強をする「サタデースクール」です

- 毎週土曜日午前中授業
- 授業回数年間約40回
- 校舎はアクトン、プレント、クロイドンの3校舎
- 小・中学部・高等部 (学習指導要領に準じたカリキュラム)
- 日本語科 (日本語を第2母国語とし、日本語の習得を望む児童生徒対象に7クラス設置)

入学・転入学随時受付 TEL: 020-8993-7145

● 日本クラブ 在英日本企業300社がサポートしています / 英国で50年以上に亘り日本語で最新医療を提供しています

NIPPON CLUB メディカルクリニック

内科
小児科
一般診療

東京慈恵会医科大学の派遣医師が常勤しています

- 各種旅行傷害保険取扱
- 海外派遣員医療保険取扱
- 健康診断・婦人科検診随時実施
- キャッシュレス対応

内科・小児科を中心とした一般診療に加え、健康診断、乳幼児検診、婦人科検診、各種予防接種を行うほか、日本人専門医による内視鏡検査も行っています。最新設備を備えた総合病院内で診療しているため、CT/MRIなどの専門検査や各種専門医への紹介・入院手続が可能です。

旅行
保険で
キャッシュ
レス

www.nipponclub.co.uk/clinic

Hospital of St John & St Elizabeth (Brampton House 1F)
 60 Grove End Road, London NW8 9NH (Jubilee線St John's Wood駅から徒歩3分)

020-7266-1121
 (要予約、年末年始と祝日を除く毎日診療)